

雨の強さと降り方、災害発生の目安

1時間雨量 (mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
予報単語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内 (木造住宅を想定)	雨の音で話しがよく聞き取れない				
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて	ワイパーを速くしても見づらい		高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる (ハイドロプレーニング現象)	車の運転は危険	
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。 	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。 	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。 	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。 	雨による大規模な災害の発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。 

避難のポイント

<p>外出が危険なときは、家の2階などの少しでも安全な場所に移動する (垂直避難)。</p> 	<p>避難前に、ガスの元栓やブレーカーを切り、火の始末や戸締りをする。</p> 	<p>いざという時、居場所を知らせるために、笛 (ホイッスル) を持つておく。</p> 	<p>非常持出品は必要最低限にとどめ、背負って、両手は自由に動かせるようにする。</p> 
<p>長靴は水が入って歩きにくく危険。裸足も禁物。運動靴をはく。</p> 	<p>道路冠水時は、側溝、水路、マンホール (ふたが外れている可能性がある)、坂道 (水深が浅くても水の流れが速い)、ため池などが危険。</p> 	<p>橋を渡らないようにする。</p> 	<p>足元が見えないことが多いので、よく通っている道でも道路の真ん中を慎重に歩く。</p> 
<p>先導の人は窪みや溝を確かめるため、長い棒を杖にしながら歩く。</p> 	<p>2人以上で避難する。家族は口でつながって避難する。</p> 	<p>流水や冠水の中で歩ける水深は、膝ぐらい (男性70cm、女性50cm程度) までが目安になる。それ以上なら無理をせず、高い所で救助を待つ。</p> 	<p>増水したら、子どもは浮き袋に乘せ、乳幼児はベビーバスを船のように使う。</p> 
<p>自動車はもちろん自転車での避難も危険なので、必ず歩いて避難する。</p> 	<p>田んぼや畑の見回りは避ける。</p> 	<p>垂れ下がった電線には触らない。</p> 	<p>隣近所に声をかけて助け合いを大切にする。病人や歩行困難な人は背負って避難する。</p> 